

公益社団法人 第24回理事会・第13回社員総会 議決

平成29年度

# 事業報告書

平成29年4月1日から

平成30年3月31日まで

公益社団法人 北之台雅楽アンサンブル

## 【基本方針】

- (1) 公益目的事業Ⅰ—国内雅楽演奏会等の開催
- (2) 公益目的事業Ⅱ—海外雅楽公演等の開催
- (3) 公益目的事業Ⅲ—教育機関等における雅楽紹介
- (4) 管理・広報部門の充実（法人活動）

## 【具体的事業】

### 1. 公益目的事業Ⅰ—国内雅楽演奏会等の開催

#### ① 雅楽に関する演奏会

##### 【事業名1：地域における雅楽の振興】

- a. 事業の趣旨：地域の催しに参加し、地元の方々に雅楽に親しんでもらえる機会を増やす。
- b. 日 時：平成29年10月31日（火）
- c. 場 所：長者天神社境内
- d. 対 象：一般 100名
- e. 入場料：無料
- f. 内 容：雅楽演奏
  - 管絃「平調音取」「越殿楽」
  - 舞楽「浦安の舞」
- g. 主 催：長者町おたちの会
- h. 後 援：長者町商店街
- i. 反 響：参加して4年目を迎えるおたち祭であるが、地域の人々から好評を得ており、雅楽が地域に定着してきたと感じられる。

##### 【事業名2：平塚市まちづくり財団雅楽公演】

- a. 事業の趣旨：市民の芸術文化への関心を高め、文化意識の向上を図るために、平塚市まちづくり財団から雅楽の公演依頼をいただいた。  
「天平・春の奏楽～囲碁と雅楽～」と題して演奏会を開催し、囲碁と雅楽には共に歴史的な価値あることを理解していただいた。  
平塚市の囲碁については、湘南ひらつか囲碁文化振興事業実行委員長 丸山孜(まるやま つとむ)氏を迎えた。

本公演では、囲碁の街・平塚市での演奏会を開催するにあたって、囲碁とかかわる曲目を選んだ。

- b. 日 時：平成30年3月10日（土）14：00開演
- c. 場 所：平塚市中央公民館大ホール
- d. 対 象：一般 313名（全席自由）
- e. 入場料：2,500円
- f. 主 催：平塚市まちづくり財団文化事業部
- g. 出 演：公益社団法人北之台雅楽アンサンブル
- h. 客 演：安齋省吾師（元宮内庁式部職楽部首席楽長）
- i. 演 目：第一部 管絃「双調音取」「鳥急」「陵王」  
第二部 お話「平塚市の囲碁について」  
講師：丸山 孜氏  
（湘南ひらつか囲碁文化振興事業実行委員長）  
舞楽「甘州」  
安齋省吾師による笛の独奏
- j. 感 想：

【演奏に関する感想】

- ・初めて日本の伝統芸能を見て、とても新鮮でした。古典芸能の生は、なかなか聴いたり観たりする機会がありませんので、とても感動しました。説明もあり、沢山の楽器を紹介して下さい、初めて見たものもあり、ありがたかったです。初心者でもわかりやすく聴けました。
- ・平塚で雅楽をきけるというので楽しみにしていました。ゆったりした奏楽で初めて生演奏を楽しみました。管絃だけでなく舞楽も見ることができてよかったです。説明もあったので分かりやすく、司会の方もユーモアにあふれていて良かったです。
- ・透明な音色に心が洗われました。雅な気持ちにさせて貰いました。又の機会を楽しみにしています。
- ・大変典雅な世界を楽しませていただきました。箏をやっていますので、ルーツである楽箏を聞かせていただき勉強になりました。雅楽をもっと広めてほしいです。
- ・感動的なひとときでしたが、来場者の方の演奏中のマナーの悪さが余計に残念に感じました。守っていくべき大切な日本文化のひとつです。またの機会がどうかありますように。ありがとうございました。
- ・楽器紹介の時間を設けたのがよかった。パンフレットは用語が難しいので、もう少しかみくだいた方がよいと感じた。また、司会

は良かったが、分かりにくい言葉が多かった。

- ・ 楽人の人数、楽器、舞台を揃えており、このような機会は貴重であり、雅楽の演目が少なかったのがもったいない。もっと演目を拝聴したかった。
- ・ 司会の人は、もう少し雅楽について見識のある方にお話してほしかった。台本を読んでいるだけの様でした。北之台雅楽より、解説、説明が欲しかった。
- ・ 笛の独奏の時、空調の音が気になった。安齋さんのお話は大変良かった。衣装の話も聞きたかった。
- ・ お話がだらだらと長すぎる。演技演奏に長話はいらぬ。

#### 【囲碁に関する感想】

- ・ 初めての体験で色々勉強になりました。囲碁とのつながりも興味深いものでした。
- ・ めずらしい演奏をきかせていただきました。本物の生の音楽は、素晴らしいですね。囲碁についてはもっと簡単な説明で良かったです。
- ・ 囲碁の説明の方は、何を言いたいのがよく分からなかった。関係ない時代の話はいらぬように感じた。また、囲碁の話については、演奏の間に入れるのではなく、最初か最後にしてほしかった。管絃と舞楽は、続けて見たかった。

#### 【意見・要望もしくは悪い点】

- ・ 今後も定期的開催して欲しい。
- ・ 当日の交通方法やその他の情報（駐車場の有無等）もっと詳しく事前に知らせておいてほしいです。

#### 【事業名 3：一橋大学如水会館雅楽公演】

本事業は、本年度には実施されなかった。

#### ② 雅楽に関する講演会

#### 【事業名 1：第八回「雅楽と国際文化交流」】

- a. 事業の趣旨：本企画は、国内外の各界の有識者を招聘し、日本文化を中心に多岐に渉るテーマについてご講演をいただき、

国際文化交流を推進すると共に、日本の伝統文化である雅楽の紹介を願いとす。

- b. 日 時：平成29年4月7日（金）18時00分～
- c. 場 所：紀尾井小ホール（東京、四谷）
- d. 対 象：一般 159名
- e. 入場料：前売り2,500円／当日3,000円
- f. 主 催：公益社団法人北之台雅楽アンサンブル
- g. 後 援：チュニジア大使館
- h. 助 成：公益財団法人新日鉄住金文化財団
- i. 内 容：

第一部 講義

講師：大島賢三氏（元国連大使）

講演テーマ：「最近の国際情勢—トランプ政権の誕生、  
国連アフリカをめぐり」

第二部 雅楽演奏

管絃「太食調音取」「傾盃楽急」「輪鼓禪脱」

舞楽「迦陵頻」

安齋先生の龍笛独奏「鳥急」

- j. 成 果：

各国大使館関係者、外務省、政界、財界、音楽関係者といった幅広い方々を招待しての開催となった。

今回は、直前に講師の変更という予想外の出来事もあったが、本公演に参加を予定していた大島賢三元国連大使が、急なお願いにもかかわらず講師を快諾していただき、大きなトラブルにならずに公演を無事終えることができた。

講演内容が、現在多くの方が興味を持たれているトランプ政権誕生後の国際情勢という難しいものであったが、具体的な数字や画像とともに解説され、非常に理解し易いものであった。

また、アフリカにおける日本の貢献等、普段の私たちには馴染みのないことも開設され、まさに国際文化交流の名にふさわしい内容であった。

後援いただいた在日チュニジア大使館からは、カイス・ダラジ特命全権大使のご来臨を賜り、当アンサンブルが日本伝統芸術である雅楽を通して国際文化交流に取り組んでいることへの感謝の言葉をいただいた。

当アンサンブルは、過去2回にわたりチュニジアで雅楽公演を実施しており、雅楽による国際文化交流を多くの方々に評価されるこ

とになった。

第二部の雅楽演奏では、元宮内庁首席楽長の安齋先生にご出演いただき、管絃2曲、舞楽1曲をともに演奏していただいた。

最後に安齋先生の龍笛独奏で公演は締めくくられ、好評のうちに終了した。

聴衆からは「大島大使のお話は判り易く、最近のアフリカも含めた世界情勢をコンパクトに総括して戴き、勉強になりました」「日頃、慣れ親しんだ国柄でないアフリカが主題で大変興味深く、感銘を受けたお話でした」「間近で聴く雅楽の音色は、とても迫力があり、とても刺激になりました」「日頃の猛練習の成果が見られ、手慣れた安齋先生の独奏と相まって、引き締まった舞台でした」と、好評を博した感想が届いた。

## 2. 公益目的事業Ⅱ—海外雅楽公演等の開催

### ① 海外雅楽公演及びそれに伴う事業

#### 【事業名1：米国ボストン日本まつり雅楽演奏】

- a. 事業の趣旨：ボストン日本まつりは、現地日系企業、邦人団体が主催となり、日本文化を紹介するイベントであり、雅楽を通して日米両国の相互理解、友好親善に貢献する。
- b. 日 時：平成29年4月30日（日）
- c. 会 場：ボストン・コモン（全米最古の都市公園）
- d. 対 象：一般1,000名
- e. 主 催：ボストン日本商業会、ボストン日本人会、昭和ボストン、在ボストン日本国総領事館他
- f. 後 援：ボストン日本協会
- g. 協 賛：日本航空、ユニクロ他
- h. 受け入れ機関：ボストン日本まつり実行委員会、サンボー5財団
- i. 内 容：舞楽「陵王」
- j. 渡航人員：舞人2名
- k. 成 果：

ボストン日本祭りは、2012年「アメリカへの桜の植樹100年」を記念して第一回が開催され、以来毎年行われている。以来参加者は年々増え、2015年には3万人、2016年には6万人が参加するという一大イベントに成長した。

今年は途中で雨が降ったにも拘わらず、前回は上回る来場者で賑

わい、大成功となった。

当アンサンブルは第2回から参加し、第6回目の今年は舞楽「陵王」を披露した。

来場者からは「日本祭りに最も相応しい伝統的な文化紹介だと思う」「日本でも見る機会の少ない雅楽をこのボストンの地で披露され、気軽に鑑賞出来るのはとても素晴らしい活動だと思う」「このようなゆっくりした音楽や動きはアメリカ人には伝わらないと思っていたが、多くの方が日本的な異文化を経験したいと感じていることが分かった」「日本の伝統が深く感じ取れ、音響も良かった」「装束も豪華で素晴らしい舞だった」と好評をいただいた。

### 【事業名2：オーストラリアにおける雅楽紹介】

本事業は、今年度は実施されなかった。

### 【事業名3：ベルギー フェディエ財団における雅楽紹介】

- a. 事業の趣旨：日本の民芸品の蒐集展示を通して、ベルギー首都ブリュッセルにおいて継続的に日本文化紹介に尽力されているフェディエ財団に平成30年秋3月、別館ホール（多目的ホール）が完成。竣工記念として当該アンサンブルによる雅楽演奏を行った。併せて、フランス・ボルドー大学における「外国語フェスティバル」に招聘され、雅楽小公演を開催した。
- b. 日 時：平成30年3月13日～19日
- c. 会 場：
  - ① フェディエ財団別館ホール（3月17日）
  - ② ボルドー大学大講堂（3月15日）
- d. 対 象：
  - ①フェディエ財団：財団会員及び一般 約120名
  - ②ボルドー大学：約100名
- e. 内 容：
  - ①フェディエ財団：茶の湯、舞楽「陵王」、神楽笛独奏「朝倉音取」「其駒」
  - ②ボルドー大学：管絃「平調音取」「越殿楽」、舞楽「陵王」
- f. 渡航人員：楽人2名、舞人1名、茶の湯2名
- g. 受け入れ機関：フェディエ財団及びボルドー大学日本語学科
- h. 反響・成果：

①フェディエ財団：

- ・ 林肇在ベルギー日本国特命全権大使、在ベルギーフランス大使館文化担当官始め、ベルギー、オランダ、フランス各国名誉大使、政財界人を含む現地有識者約120名が参列。
- ・ 「2016みやび公演」ディレクター・アド博士が司会及び演出を務めた。会場前面のスクリーンには、雅楽の調べのBGMの中、日本の美しい自然風景、庭園、神社仏閣、美術品の映像など放映された。会場は、草月流・ベルスマ敦子氏による生け花で彩られた。
- ・ 冒頭、フェディエ財団会長マリーナ・フェディエ氏による挨拶。長年の計画であった別館多目的ホールが完成した喜びと、西洋と日本を結ぶ活動のさらなる拡大への展望が述べられた。
- ・ オープニング式典は茶の湯紹介より開始。亭主は井口峰子アンサンブル副理事長、正客は林日本大使がなされ、静寂な雰囲気の中、観衆は雅楽の世界に誘われた。
- ・ 最初に、井口陽一郎理事長による舞楽「陵王」、次いで元宮内庁楽部首席楽長・安齋省吾先生による「朝倉音取」「其駒」の神楽笛独奏。会場は、神秘かつ幽玄な雰囲気に満たされた。多くの方々より、感動の拍手が止まなかった。
- ・ 終了後のレセプションでは、フェディエ財団会長マリーナ・フェディエ氏より謝意が井口理事長夫妻に述べられ、今後の協力関係を確認。
- ・ 林日本大使始め、多くの参加者より、茶の湯及び雅楽に触れた感動が述べられ、本企画は大成功を収めたと言えよう。
- ・ フェディエ会長より、来年1月開催予定のジャポニスム雅楽公演に際して、パリ・ギメ美術館にての公演実現への支援が約束された。
- ・ 同じくルトゥルネル・フランス大使館文化担当官より、来年予定されているジャポニスム雅楽公演への関心が寄せられた。

②ボルドー大学：

- ・ ベルギールーヴァン・カトリック大学櫻井直子講師よりボルドー大学日本語学科を紹介され、本企画となった。
- ・ 学科長エディ・デュフルモン教授の協力で「外国語フェスティバル」の一環として雅楽紹介が実現。鞆鼓、笙、箏、龍笛各一管による「平調音取」「越殿楽」演奏ののち、舞楽「陵王」を音源CDにて披露。
- ・ 参加された約100名の学生、教員の殆どは初めて触れる雅楽に



興味津々、真剣に聞き入っていた。デュフルモン教授より、皆大変喜んだと感想が寄せられた。

- ・ 2019年1月下旬を目途に、同大学の教育プロジェクトの一環として、再度「北之台雅楽アンサンブル」を招聘したい意向が寄せられた。

### 3. 公益目的事業Ⅲ—教育機関等における雅楽紹介

#### ① 雅楽演奏会

本年度は、対象となる事業の予定はない。

#### ② 雅楽体験教室

#### 【事業名1：伝統芸能・洋楽～ふれあい体験事業 千葉県庁委託事業】

- a. 事業の趣旨：当該事業は千葉県環境生活部県民生活・文化課策定の「伝統芸能・洋楽～ふれあい体験事業」実施要項に基づき実施するものである。

千葉県内の小中学校の児童・生徒を対象に、邦楽理解の向上と伝統的音楽文化の普及・振興、並びに邦楽における後継者育成に寄与する。

- b. 日 時：平成29年9月より平成30年2月

- c. 場 所：千葉県内小中学校6校（教育委員会推薦）

- ①平成29年9月8日 木更津市立請西小学校
- ②平成29年10月11日 南房総市立和田小学校
- ③平成29年10月19日 君津市立南子安小学校
- ④平成29年11月17日 山武市立成東東中学校
- ⑤平成29年12月15日 鴨川市立小湊小学校
- ⑥平成30年1月16日 東金市立東小学校

- d. 参加者数：

- ①木更津市立請西小学校 204名（5～6年生）
- ②南房総市立和田小学校 52名（1～6年生）
- ③君津市立南子安小学校 617名（1～6年生）
- ④山武市立成東東中学校 300名（1～3年生）
- ⑤鴨川市立小湊小学校 110名（3校合計）
  - ・小湊小学校 43名（3～6年生）
  - ・安房東中学校 49名（1～2年生）
  - ・わかしお学校 18名（5～6年生）

⑥東金市立東小学校 337名（4～6年生）

合 計 1,620名

e. 内 容 :

①鑑 賞

- ・雅楽鑑賞 管絃「楽器紹介」「平調音取」「越殿楽」
- ・舞楽鑑賞 舞楽「迦陵頻」

②体 験

- ・楽器体験
  - －楽器体験では、生徒が6グループに分かれて打物（鞆鼓・太鼓・鉦鼓）、笙、箏、龍笛、箏、琵琶の8種類の楽器を体験した。
  - －学校側にタイムキーパーをお願いし、回る順番を決め、各グループが10分毎に楽器を移動し、決められた時間内で、できるだけ多くの楽器に触れてもらうように配慮した。
- ・舞楽体験
  - －参加生徒全員と舞人とが一緒になって舞楽「迦陵頻」の出手（でるて）の舞振りを体験した。
  - －2回の練習をした後、実際に曲に合わせて舞振りを行った。
- ・朗詠体験
  - －朗詠「嘉辰」を一緒に歌った。
  - －2回の練習を行った後、演奏者の曲に合わせて歌った。

※「鑑賞」及び「体験」参加状況 (人)

学 校 名 (学年)	参加者数	鑑 賞	体 験	
			楽 器	舞 楽
① 請西小学校 (5～6)	204	204	103	0
② 和田小学校 (1～6)	52	52	17	17
③ 南子安小学校 (1～6)	617	617	102	102
④ 成東東中学校 (1～3)	300	300	0	300
⑤ 小湊小学校 (3～6)	110	110	22	0
⑥ 東小学校 (4～6)	337	337	104	0
合 計	1,620	1,620	348	419

※成東東中学校の舞楽体験は、朗詠の体験を実施した。

f. 成 果

○雅楽を鑑賞して

- ①初めて雅楽を聞き、心がふるえたり、鳥肌がたった生徒もいた。

また、雅楽を聞くことによって、「和」というものを強く感じる生徒もいた。多くの生徒は、洋楽（オーケストラ）を聞いているので、雅楽との違いを理解される者が多かった。

- ②雅楽を演奏するときの口や指の動き、ブレスの仕方がよく分かった。とても難しく、単純そうだがすごく鍛錬が必要だということが理解できた。また、舞楽は独特な衣装と雅楽との組み合わせが素晴らしく、朗詠の嘉辰では音の読み方や歌い方が独特で、変わった楽譜で音楽の輪郭が分かるのも楽しく思われた。
- ③雅楽の生演奏は、楽器一つ一つの音色が体に染み込み、子守歌を聞くような心地になった。また、音が心の中に入り込んできて、癒しを感じる生徒もいた。
- ④指揮者がいないのに、全ての楽器の音が合うことに驚きを感じた。また、音が大きくてミスが許されないのに、緊張している姿を見せずに演奏している姿やその集中力、無駄な動きがないこと、入場するときからの姿勢が美しく、演奏するまでも顔色を変えることなく待っている姿からも真剣さが伝わった。
- ⑤千年以上前、その時代にあった自然の竹などの道具で、あのような美しい音が出せることが素晴らしいと感じる。また、その楽器を作り出す発想にも驚きを感じた。全体的に力強い感じがする日本古来の美しさとして理解された。
- ⑥雅楽が昔から続いており、大切にされてきたことを理解した。また、日本の和の美しさを知り、平安時代の優雅な生活が目についた。楽器での曲なのに、女性の歌声や言葉のように聞こえた。また、曲の終わりがきれいで、少し悲しい感じがした。
- ⑦千年以上も続けるという、継続の大切さや大変さを理解する。また、平安時代から親から子に、子から孫にというように教えていく雅楽に興味を示した。継続していくことの大切さを理解され、習い事をしている生徒からは、これからも続けていこうと決意を聞くことができた。

#### ○楽器体験を通して

- ①演奏に加え、今までに見たことのない様々な楽器に触れるという貴重な体験に、生徒たちがとても喜ばれた。
- ②見ていると簡単に音がでると思った生徒が多く、実際に体験してみると、なかなか音が出なくて、難しいということが理解された。また、それぞれの楽器の音の出し方や叩き方を教えることによって、息の吹き加減を調整したり、たたき具合などに気を付けたり、

工夫をすることが大切であることが理解された。また、この体験を何かに役立てたいと考える生徒もいた。

- ③千年も続いている日本の伝統芸能である雅楽を体験することは、歴史上の人物である織田信長や豊臣秀吉、徳川家康も聞いたり見たりしたものであるという歴史の重さが感じられた。

○全体を通して

- ①体験事業の喜ばれることは、普段の授業では体験することが出来ない高価で貴重な楽器に触れることができることだと考えられる。また、先生方もそのことを理解されている。
- ②2013年から始まった『ふれあい体験事業』も5年目を迎え、32校、約6,000名の生徒に雅楽の鑑賞・楽器の体験をしてもらうことができた。日本の伝統文化である雅楽を通して、青少年の情操教育への寄与を目的に活動をしている当アンサンブルは、今後とも『ふれあい体験事業』を継続させていただけることを願っている。

g. 出向人員：楽人11名、舞人4名、スタッフ8名 計23名

③ 雅楽研修会

本年度は、対象となる事業の予定はない。

4. 管理・広報部門の充実（法人活動）

① 広報活動

- a. Web、情報誌、パンフレット、チラシを媒体としたPR活動の推進  
b. 賛助会員募集（個人会員）の推進  
c. 情報誌（季刊）の作成（賛助会員配布用）  
d. アンサンブル公演カレンダーの製作

② 事務機能の充実

- a. 定款による業務遂行のための内部充実  
b. 経理業務の委託

以上